

C-54 日本婦人の身体計測値の推移（第2報）

共立女大家政 藤原 房江
立正女大家政 ○松田 歌子

1. 第1報において、年齢によるグループ別に日本婦人の身体計測調査を行ない、それぞれの差異及び相関関係を発表した。

その結果、グループ別の差異が顕著であったので、何

時から、何故にこの様な差異が生じて来たかを調査究明してみる必要を感じ、本研究を試みることにした。

2. (1)日赤産院における分娩要録の抽出、(第1号、第7号、第69号)

(2)厚生省母子衛生課の統計資料

(3)文部省学校保健統計課の統計資料に基づき、第1報の20歳・30代・55~65歳のそれぞれの出生時より成人迄の成長過程を追って比較調査した。

3. (1) 正常でない国民の生活環境(即ち第2次世界大戦の如き)が、成長期に当たっていた人間の身体発育に与えた影響が、如何に大であったかを結果として見る事が出来た。

(2) 社会の生活環境の正常化と共に漸次身体の発育は向上して来たが、欠陥を取りもどすためには永い年月を要する事がわかった。

(3) しかも、正常な生活環境に生れ成長成人した者と比較すると、なおかつ差異が認められるので、正常な社会の環境が、成長期の人間にとって、いかに大切であるかを再認識させられた。